

我が国の優れた医術である内視鏡手術で手術痕が全くない画期的なモノで、多くの若い人や子供達の未来を明るくする素晴らしいオベと絶賛されました。

現地の医師にもこの方法を伝授し、この様子は当時の NHK の番組「プロジェクト X」でも 採り上げられ、その活躍振りが紹介されました。

5 年後帰国、長野県知事は衛生部長の席を用意し迎え入れております。

この間、吉川英治文学賞を受賞。

やがて市民から推され松本市長選に出馬、当選、現在二期目です。



ベラルーシ共和国における甲状腺ガン検診  
© チェルノブイリ支援運動・九州



(ベラルーシで執刀中の菅谷医師、手前)  
菅谷・松本市長は、福島原発事故で避難している子供達を松本市の郊外に迎える施設を造りたいとた抱負を述べておりましたが、是非ともお願いしたいことです。

その後日本人医師団が支援に入り、優れた医術で手術痕はありません。

Q : チリノブイリ原発事故を教訓として国、電力会社は対策を執らなかったのですか？

A : チリノブイリ原発事は痛ましい教訓でした。レベル7 史上最悪の原発事故、周辺 30km 圏内の住民 13 万 5 千人が避難、25 年以上経過しても還ることが出来ず、還る予定も不明、25 年以上たつと世代も替わってしまい、仕事でも現地に定着してしまっているようです。

この事故では多くの教訓を残しております。

第一に言えることは、事故が起きたことをソ連政府はが全く通報せず、第一報は現場から数千キロ離れたスエーデンからで、この報に驚いた近隣ヨーロッパ諸国は混乱に陥入っようで、環境汚染防止を早急に着手しなければならず放射性ヨウ素 131 に対する備えで、前項で述べたように、その影響を予防するためには、一番敏感な乳幼児にいかにか素早く安定ヨウ素剤を服用させることで、これは時間の問題です。

ですからその時政府がどう動いたかが問題です。ソ連邦は不幸にして動きが鈍すぎたし、当時はソ連邦でしたが、その後まもなくソ連邦が崩壊したので現在のような独立国になりました。現在の地図で見ますと、チリノブイリ原発はウクライナ、北側がベラルーシ、西側がポ